

広告特集 企画・制作 読売新聞社広告局

ユーザーのリサイクルの窓口

販売 整備 引き取り

愛媛県松山市 愛媛日産自動車宮西店



ユーザーが車を購入するときについてくるリサイクル券。ユーザーも車のリサイクルに関わっているのです。



自動車の機能が進化し、ほとんどリサイクルされていることも、全国のお友だちに伝えたいと思いました。

ユーザーとの接点となる自動車販売店。子ども記者たちも電気自動車に乗せてもらいました。

自動車販売店では整備も行っていきます。ここでも使用済みの車から取り出した部品などを使用し、環境に配慮しています。

その結果、使われなくなった車のほとんどがリサイクルされ、資源として有効活用されているのです。

環境意識の高まりを受けて、日本でも2005年に自動車リサイクル法が施行されました。日本では自動車の持ち主や解体事業者、破砕事業者、自動車販売店、メーカーなどが一体となってリサイクルに取り組みんでいます。リサイクルは、車を買う時から始まっています。ユーザーは購入時にリサイクル料金を支払うからです。その後、車を使わなくなると、引き取り業者に車を渡し、フロンガスをエアコンから回収したり、エアバッグを処理したりします。さらにエンジンやタイヤホイールなどを調整してリサイクル部品として再利用します。

環境意識の高まりを受けて、日本でも2005年に自動車リサイクル法が施行されました。日本では自動車の持ち主や解体事業者、破砕事業者、自動車販売店、メーカーなどが一体となってリサイクルに取り組みんでいます。リサイクルは、車を買う時から始まっています。ユーザーは購入時にリサイクル料金を支払うからです。その後、車を使わなくなると、引き取り業者に車を渡し、フロンガスをエアコンから回収したり、エアバッグを処理したりします。さらにエンジンやタイヤホイールなどを調整してリサイクル部品として再利用します。

環境を考えたクルマづくり

メーカー

愛知県豊田市 トヨタ自動車工場



工場で使用する電力は太陽光発電を利用するなど、環境に優しい工夫がたくさんされています。

リサイクル率を高めるために、解体しやすいクルマづくりが行われています。



リサイクルしやすいように、最初から工夫してクルマを組み立てていることにとても感心しました。

クルマづくりから、ユーザーが購入し使い終わった後までの、リサイクルシステムについて学びました。



まずは解体する前に適正処理。ガソリンや廃液、フロンガスを抜き取り、エアバッグを特殊な器具で取り外します。

リサイクルの現場は丁寧な作業の積み重ね。環境保護につながっていることも理解できました。

使用済みの車から使える部品を取り出す

解体 再利用

鹿児島県鹿児島市 オートパーツ 伊地知



取り外した部品はきれいに洗って再び商品に生まれ変わります。日本全国からの問い合わせに対応するネットワークがあります。

使用済みの車でも使える部品は丁寧に取り外します。

# 車のほとんどをリサイクル

日本は自動車のリサイクル大国。子ども記者たちは、全国の自動車工場や解体事業者などをめぐり、さまざまなリサイクル作業を見学することで、使われなくなった車のほとんどが資源として再利用されていることを知りました。これまでの取材をまとめて報告します。



車1台をシュレッダーにかけてこなごなにした後、金属資源を回収します。

使われなくなった車も資源になることがわかり、環境保護に役立つことも知りました。

砕いて分けて再資源

破砕 分別

愛媛県松山市 金城産業

細くなった金属を機械によって、鉄やアルミ、銅などの種類ごとに分けます。高度な技術が使われています。

金属以外の樹脂やプラスチック、ゴムなどはシュレッダーダストと呼ばれます。これも今ではほとんどをリサイクルしています。

詳しくは 9月12日、10月10日の「読売KODOMO新聞」を 見てみよう!

